

自由南アフリカの声

Voice of Free South Africa

2023年6月

No. 81

～ 1冊の本が人生を変える～

発行 / アジア・アフリカと共に歩む会

Together with Africa and Asia Association (TAAA)



2022年10月～2023年5月の報告

- 2022年10月～2023年5月 国内では、英語の絵本を収集・発送、ぐりとぐら現地語ラベル貼り
南アでは、算数セットを使った算数授業のサポート、音読サポート
本・算数セット・サッカーボールの配布、対象校全13校の学校図書活動サポート
- 11月 英語の本5610冊、算数セット343個、サッカーボール138個が南アに到着
- 1月～3月 文房具の購入・配布、対象校12校の司書教師にアンケート実施
- 5月 TAAA会員総会、現地報告会

目次	• 2023年12月TAAA解散予定のお知らせ (久我祐子)	2
	• 「ぐりとぐら」そして「そらいろのたね」の現地語版製作 (大友深雪)	3
	• 現地活動報告「生徒の進学、先生の異動で広がる図書活動」(平林薫)	4
	• 州農業省からのMOATS (ムタルメ有機農業塾) 便り (カムキレ・ギタ)	8
	• ドゥエシューラ学区対象校12校：司書教師へのアンケート回答一覧	9
	• 2022年度会計報告	10
	• 活動日誌	11
	• 寄付金や本などを下さった方々	12



TAAAの会報(78号)に自己紹介が載って誇らしげなドゥドゥズィレ中高生徒

2023年12月TAAA解散予定のお知らせ

会員、支援者の皆さまへ

日頃はTAAAの活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

前号(80号)の会報でお伝えしました通り、2022年9月30日に国内の活動拠点である作業所が閉鎖されました。その後、TAAA理事会は、現地プロジェクトマネージャーを交えて今後の当会の方向性について話し合いを重ね、2023年12月31日に当会を解散することを検討することとなりました。

5月21日開催の会員総会で、この件を解散議案として会員の皆さまに審議していただいた結果、議決され、定款変更手続きを行うこととなりました。所轄庁より定款変更が認証されましたら、**2023年12月31日に特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会(TAAA)は解散いたします。**

当会は、1992年に任意団体として発足し、2013年に特定非営利活動法人になりました。31年という本当に長い期間、皆さまに支えられてきたお蔭で、合計49万冊以上の英語の本と約5千個の・教材・教具を南アフリカの貧困地域の学校に送ることができ、また現地で直接支援した学校だけでも100校を超えました。一方で、民主主義国家となり29年を経た南アフリカ共和国は、国として着実に変化を遂げてきました。

「アパルトヘイト後の南アの教育の立て直しを日本の市民も応援していきたい」という設立当初の目的は、多くの方々の多大なご協力のお蔭で、ほぼ達成できたのではと考えております。長年のご支援に感謝申し上げます。

今年度の会費、ご寄付、英語の絵本、書き損じハガキ・切手につきましては、2023年8月31日を受付最終日とさせていただきます。 仕上げの年のご寄付は大変ありがたく、早めのご協力をお願いできれば幸いに存じます。

今年末までの残された期間、日本でも南アでも出来ること、やり残したことは精一杯取り組んでいきたいと思っております。引き続きご支援のほど、どうぞよろしくお願い致します。

2023年6月1日

(特活) アジア・アフリカと共に歩む会

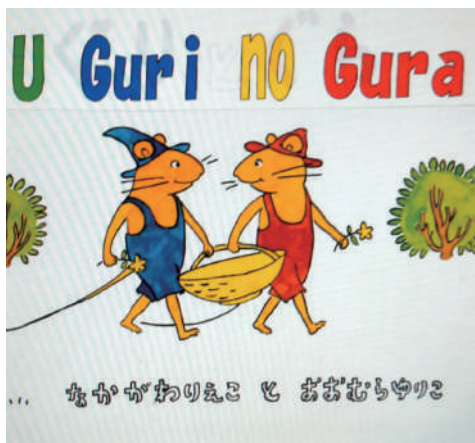
代表 久我祐子

現地語の絵本が不足しているがために、幼少期の子供たちが絵本とお友達になれない現状をなんとかしたいと、TAAAは2008年に「ぐりとぐら」プロジェクトを始めました。「日本語の絵本に現地語の母語訳を貼って送ったらどうだろう」という私たちのアイデアに賛同した現地の校長先生が、母語（ズール語）の訳を引き受けてくださり、共同作業が始まりました。

「ぐりとぐら」プロジェクトは、現地の子供たちに大好評で、15年間続けてまいりました。以下は最後の活動記録です。

「ぐりとぐら」そして「そらいろのたね」の現地語版製作 —日本語絵本への現地語ピース貼りと完成版出荷のご報告—

2022年9月29日にお亡くなりになった画家の山脇（大村）百合子さんが、実姉で保育士・作家の中川季枝子さんの物語に食べものとお料理に目がない野ネズミたちの大冒険の挿絵をあしらってロングセラーとなった「ぐりとぐら」（英語版と日本語版）が当会へも寄付され始めた時、3年生まではズール語で勉強する現地の子どもたちへ送る絵本の候補にあがりました。物語的にも、シェア文化が根付く地域社会で生きる現地の子どもたちにも共感を持って読んでもらえるのではないかという話になり、「ぐりと



ぐら」の寄付をよびかけ、その後同じくお二人の作品である「そらいろのたね」も寄付頂くようになったのでした。

現地語版製作にあたっては、まずは英語版を当時対象校だったズバネ小学校の校長に現地語（ズール語）に訳していただき、当会の西村さんが各頁の日本語への貼りつけピース製作という大技仕事をしてくださり、その後、ボランティアの方々との協力も得て貼りつけ作業を続けて来たという経緯があります。15年間楽しく続けてきたこのプロジェクトも最終段階を迎えました。

低学年用の本を充実させたいという平林さんの意向も受けて、すでに寄付頂いている分の貼りつけ作業は2022年中に終わらせようという計画を立て、まずは11月3日にその1回目を実施しました。中央大学杉並高校からボランティアで参加して下さったお二人と当会の浅見さん、西村さん、大友の3人で、午前から作業をし、昼を挟んで4時半過ぎで、25冊の現地語版を作成しました。残った本と貼りつけピースは、一部、西村さんと大友が自宅に持ち帰り、年を越えてそれぞれ作業を続けました。

その一方で、2022年としては最後の作業日を12月18日に設定し、11月3日に引き続き、中央大学杉並高校のお二人にも参加頂き、貼りつけ作業の仕上げと2箱梱包（一箱16冊）を果たし、船便印刷物として郵便局に持ち込み、発送までこぎ着けました。



ウマルシ小 お昼休みに「ぐりとぐら」

年を越えて貼りつけ作業を仕上げたものについては、TAAAの活動最終年度の前半までには発送を完了させるという方針に沿って、6月～8月までの間に実施することになっています。

（大友深雪）

TAAA 南アフリカ活動報告

生徒の進学、先生の異動で広がる図書活動

TAAA 南アフリカ事務所 平林 薫

図書室が学び合いのコミュニティーセンターに

2023年1月、ドゥエシューラ学区の対象校では新年度の第1学期が始まった。N連事業で図書活動を開始してから4年目となる今年、各校ではそれぞれの状況に合った形で活動を継続している。昼休みに開室するウマルシ小の図書室では、給食を素早くとって図書室に駆け込んでくる生徒が見られる。また、英語学習に遅れが見られる生徒の補習の場としても利用されている。司書教師のンベレ先生が「図書室は、生徒が集まり一緒に学ぶコミュニティーセンターとして機能している」とアンケートに答えてくれた。



進学先で活躍し続ける図書委員会生徒たち

ウマルシ小図書委員会メンバーとして活躍したアネリシーウェさんは、今年、隣のマルシ中高校に進学して、早速図書委員会に参加して頑張っている。

対象校の生徒何千人の中で、図書活動に深くかかわる生徒の数は決して多くはないが、彼ら・彼女らにとって図書室の存在が学校生活の中で大きな力となり、私自身も彼ら・彼女らの成長を見られることが何よりの喜びだ。アネリシーウェさんの他にもフランクランド小からナニ中高校に進学したタンド君、ビューラー小からドゥドゥズィレ中高校に進学したサネレ君、メシヨムンヤマ小からマンガズーカ中高校に進学したムシェリ君等々、小学校で活躍していた図書委員会生徒が、進学先の中高で引き続き図書委員会生徒となり学校図書文化を盛り上げている。学校図書室の利用者は圧倒的に女子生徒が多いのだが、図書委員として継続して活動を続けているのは男子生徒の方が多いことが興味深い。彼らの将来の夢は医者、警察官、科学者と様々だ。校内で他の生徒への読書推進リーダーとしても活躍していった欲しい。



進学先でのアネリシーウェさん（左2番目）

前対象校の先生たちが異動先で推進役に

活発に活動が行われているフランクランド小は、N連事業初年度では対象校ではなく、TAAAが独自に図書支援をしていた。教師も生徒も真面目に取り組み他校に追いつく勢いだったため、N連事業2年

次には、活動がなかなか進まなかったチョペラ小と入れ替わり対象校となった。この入れ替わりの時期に、チョペラ小には図書活動の助っ人として、前TAAA対象地域のゴベラ小から司書教師のチェレ先生が異動されてきた。そのチェレ先生と、フランクランド小の司書教師のショペ先生は何と実の姉妹で、お二人はいろいろと情報交換をしていたのだそうだ。ほぼ同時期に、チョペラ小に赴任してきた新校長も前TAAA対象校カティ中高のムキゼ校長で、校長・司書教師共に学校図書室の重要性を理解されていることから、N連対象校からは外れたが、チョペラ小の図書活動は着実に発展していった。今年初め、近隣のマルシ中高校の図書委員会新メンバーとの顔合わせで、チョペラ小図書委員会出身の男子生徒と再会できたことは、うれしい驚きだった。

N連事業終了間際に本格始動した学校も

対象校の中で一番山奥にあるムガムレ中高校は、2022年度末の高校卒業試験で合格率100%を達成した。当初は図書活動がなかなか定着せず、校長や司書教師と会議を重ねていった。一時は図書室内の本が床にばら撒かれるなどの問題行動も見られ、コンテナ図書室自体を他校に移すことまで考えていた。ところがN連事業終了間際から英語の授業でブックレビュー用に図書室の本を使うなど、教師や生徒の図書室利用が活発に見られるようになり、参考書も有効に使われるようになった。そして、この快挙である。今年初めに学校訪問をした際、校長に祝意を伝えると、「図書室利用の効果が出ている。TAAAの支援に感謝している」との言葉と力強い握手をもらった。今年度は図書委員会メンバーになりたい生徒が多く、グループA、Bと2チームを作ったと司書教師がうれしい悲鳴をあげていた。少し時間はかかったが、事業での支援を校長や教師が真剣に受け止め、問題解決に向けて努力してくれた姿勢が生徒たちにも伝わった結果だと思う。

生徒と教師の図書室への理解が決め手

遠隔地域の学校では、教育設備の改善が大きな課題であるが、たとえ図書室の設備が揃っても、すぐに効果的に利用されるとは限らない。使いこなすのは教師や生徒であり、そのためにはまず彼らが図書室の大切さを理解し、活用の知識・方法を学ぶことが必要である。図書支援を行う中で、この部分が一番重要であると同時に最も難しく、時間がかかることを実感してきたが、一旦しっかり理解したら、その後の自発力には目を見張るものがある。2022年度は、経験を積んだ図書委員会生徒たちと司書教師が、それぞれの進学・異動先の学校でも、学校図書活動を牽引していることが確認できた実りの年となった。

ドウエシューラ新学区長から、ムタルメ・トゥートン・ウムズンベ・ドウエシューラ学区のグループ(TAAAの現・前対象学区)が昨年の高校卒業試験の成績で、何と州全体で2位だったというお話を伺った。この目覚ましい結果にはTAAAの長年の図書活動も寄与していることと自負している。

深刻な文具不足・鉛筆とペンを寄贈

会報80号でお伝えした横浜女学院の皆さまからの支援物資盗難の件については、配送会社に弁償請求を行ったのだが、いまだに返還金が未払いで、引き続き督促している状況であ



る。これまでも、十分な教材や文房具を持ち合わせていない生徒が多いことは認識していたが、今回の支援物資の配布や算数セット授業で生徒の様子をより深く観察したところ、思っていた以上に厳しい状況であることにショックを受けた。文房具を持たずに学校に来て、授業中に隣の生徒が書き終わってからペンを借りて筆記をする生徒や、低学年の生徒がその小さな手にすっぽりと入ってしまうサイズの鉛筆で書きづらそうにしている姿が見られた。そこで、今年初めにTAAAが返還予定金の一部を立て替えて、3つの小学校の低学年には鉛筆を、高学年とムガムレ中高校生徒にペンを寄贈してとても喜ばれた。一時帰国中の5月10日、久我代表と共に横浜女学院を訪問し、先生方へのご挨拶とホームルームの授業でTAAAの概要と活動についてお話しさせていただいた。その際、再度ご寄付をくださったことに深く感謝申し上げたい。このようにご縁あって横浜女学院とつながりを持てたことは、私たちにとっても大変有意義な経験となった。

都市部と遠隔地で広がる学習環境格差

生徒の家庭では、学校で必要な文房具や教材、制服の購入さえも難しい場合が多い。新年度開始直前、ショッピングセンターでは、町の学校に通う生徒と保護者（白人・黒人共に）が、学校からの配布リストを見ながら文房具や参考書等を大量に購入し、新学期への準備をしていた。人種による差別の制度がなくなった今、南アでは経済格差が広がっており、同時に情報や様々なサービスへのアクセスに関して、都市部と遠隔地の地域間格差が拡大している。

このような格差が教育格差を生み出し、結果として就労格差から貧困と負のスパイラルに陥ってしまう。遠隔地域の若者の失業問題については、道端や店前にたむろする若者の数が年々目に見えて増加しており、事態の深刻さは明らかである。しかし、都市部の学校の方が必ずしも良い環境にあるとは限らない。都市部では若年層の飲酒や薬物使用、人種差別やいじめなど、社会で起きている様々な問題がそのまま学校に影響を及ぼしている。子供たちにとって都市部と遠隔地域、どちらが良いとは単純に言えない。図書委員会で活躍した優秀な生徒が、親戚を頼って都市部の学校に転校するケースを多々見かけるが、このような問題に巻き込まれず、勉学に集中できることを願うばかりである。

算数セットでアートセンスを発揮する生徒たち

算数セットの授業では、ブロックやおはじきを使って計算を学ぶと同時に、自由に形やデザインを作るプログラムを取り入れたところ、アートセンスを発揮した生徒が見られた。対象校では図工や音楽・



体育の科目はなく、ライフスキルの授業で創作活動を行うのだが、家庭で工作用材料を用意できない生徒が多く、十分な授業ができていない。音楽や体育も学区内コンテストの前に少し練習するくらいである（それでも並外れた才能を見せる生徒もいるが）。最近ではますます座学が中心となり、休み時間を短縮する学校もあるほどで、生徒が創造力を発揮したり、技術を習得する機会ほとんどない。情操教育としての芸術や音楽、スポーツに携わる時間や、将来のキャリアにもつながる技術を学べる時間をもっと増やして欲しいと教育省に訴えたい。

シニアグループへのサッカーボール寄贈

いつも会報でお伝えしている通り、サッカーボールの寄贈は大変喜ばれている。教室での勉強が苦手な生徒にとっては、サッカーの練習が学校に通うモチベーションとなっている。「学校生活の中でこれが一番大事」と言わんばかりに力いっぱいボールを追って校庭を駆け回る生徒の姿に、一個のボールの重



みを感じる。そして今回は、地域のシニアグループにもサッカーボールを寄贈した。ドゥドゥズィレ中高校の管理人であるンザマ氏をリーダーとするオシャベニ地域のシニアグループは、定期的に会合を持って様々な活動を行っている。ンザマ氏から「メンバーの健康維持のための運動に取り入れたい」とボール寄贈の依頼があった。シニアメンバーの多くは年金等の社会保障で家族の生活を支えており、また地域の英知としても大切な存在である。これからも明るく元気に過ごしていって欲しい。

長年のご支援に感謝申し上げます

日本からの書籍やサッカーボール、算数セット等の支援貨物は、今回が最後の輸送となり、11月30日に無事南ア事務所に到着した。長年無償運輸支援を頂いてきた株式会社商船三井様、オーシャンネットワークエクスプレス（ONE）株式会社様に、そして今回国内運送・通関業務の無償支援を頂いたタカセ株式会社様には、南アの教育関係者・保護者や生徒に代わり厚くお礼を申し上げたい。

ひろしま祈りの石国際教育交流財団からのご支援では、前対象のムタルメ学区・トゥートン学区、現対象のドウェシューラ学区と、多くの学校にコンテナ図書室と本棚、書籍を寄贈することができた。コンテナ図書室に貼られたプレートのHiroshimaの文字は、生徒たちの心に刻まれていることと思う。2022年度は、小学校用のやさしい英語の本や辞書、中高校の学習参考書を購入・配備することができ、基礎教育への大きな力となった。ここに改めて、長きに渡るご支援への感謝の気持ちをお伝えしたい。

移動図書館車「イテンバ号」ありがとう！

TAAA 南ア事務所がダーバンを拠点にしていた頃より大活躍した移動図書館車きぼう号（南ア名イテンバ号）は数多くの学校を訪問し、生徒たちが本に触れ、読書を楽しむ機会を作った。ウグ郡に拠点を移してから悪路を頑張って走ってくれたが、2017年10月に移動図書館車としての役目を終え、州教育省トゥートン学区の教育センター敷地内に固定図書室として寄贈された。学区内の生徒たちに利用されてきたが、2020年のコロナ禍でセンターの利用が停止され、その後も完全な復帰に至らず、図書館の役目を終えることとなった。イテンバ号の巡回で読書が好きになった生徒たちは、きっと今頃立派な若者に成長していることだろう。本を返し忘れて、今でも大切に保管している若者もいるかもしれない。私たちの心にたくさんの素敵な思い出を残してくれたイテンバ号に感謝の意を表したい。



州農業省からの MOATS（ムタルメ有機農業塾） 便り

2016年7月～2019年4月に実施した JICA 草の根事業「有機農と業塾を拠点とした農村作り」では、小学校の敷地内に有機農業塾 MOATS を設立し地域住民に有機菜園指導を行ってきました。事業終了後は地元に引き継がれ、州環境省、州農業省、地元の自治体、コミュニティグループなどにより活用され、地域住民への有機農業の普及の拠点であり続けています。州農業省のギタさんから、MOATS で行われている州農業省主催の「ゼロハンガー（Zero Hunger）・プロジェクト」の報告が届きました。このプロジェクトは、有機栽培スキルを得た住民が、食糧自給率を上げるために自家消費用の作物を栽培し、余剰作物を地域内で販売し収入を得る取り組みです。近隣住民に畑で野菜を直売することを「ファームゲート（Farm Gate）」と呼び、推奨しています。ファームゲートでは、買い物にいく運賃が節約でき、フレッシュで栄養価の高い野菜が手に入ります。（久我祐子）

ムタルメ有機農業塾（MOATS）での農業研修と成果



MOATS の参加者は、害虫や病気から守られた品質の良い野菜を作る研修を受ける。このため研修では、栄養価を高める自然療法的対策や害虫・病気のコントロールが強調される。

苗作りの実演研修では、土や水の無駄使いを戒め、間作（土

壌保護のための有機草生栽培や被覆作物植えなど）の実施も工夫し、各自の苗床を作ることを学ぶ。



ファームゲートで売られる玉葱



MOATS の野菜販売所

マーケティングの実演研修では、収穫、品質評価、包装、価格付けを学んでいく。

研修を受けることで、参加者は各家庭で自家消費用の品質の良い野菜を作ることができるようになり、食糧確保につながる。余剰生産物は、ファームゲート（畑での販売）、MOATS 販売所、さらには SPAR や BOXER といった地元スーパーでも販売され、地域の食糧補給に貢献できている。

KZN 州農業省 カムキレ ギタ
（翻訳 大友深雪）

ドゥエシューラ学区対象校12校：司書教師へのアンケート回答一覧 (2023年2月実施)

2022年3月に日本 NGO 連携無償協力資金（N連）による図書支援事業が終了しましたが、その後の一年間、各学校がどのように図書活動を継続していったのか、問題や課題はあるのか、州教育省から協力を得ているのかなどを確認するために、司書教師にアンケート調査を行いました。

学校名	図書室 開室頻度	どのような時に 図書室の有用性 を感じるか	2022年4月以降、州教育省またはその他の団体（TAAA 以外）からサポートを受けているか	学校や SGB（PTA）からのサポート	2022年4月以降図書室利用や活動に変化があったか	① 2023年の計画
			有無	有無	① よくなった点	② その他自由コメント
			① 団体 ② 内容	内容	② 問題・課題点	
Beulah 小学校 (R-7年生) 394名	毎日 一日中	国民の祝日を祝う 図書イベントをする時	ある ①現地企業 ②図書室贈呈	ある	①生徒たちは読書が大好きになった。 図書委員会生徒たちは図書室で活発に 新しい活動を試みている	②TAAA からのサポートは素晴らしいです。皆さんのあらゆる努力に感謝 しています。
Dweshula 小学校 (R-7年生) 470名	毎日	生徒が調べものを したり、読書をする 必要がある時	ない	ない	①生徒たちは読書習慣を身に付けた。 語彙が大幅に増え、知識も増した。	
Emseni 小学校 (R-7年生) 150名	毎日 休み時間	図書室で様々な認 知レベルの本が見 つかる時。本は授 業中に音読用に 使っています。	ない	ある 授業に直接関係ない活動 であっても、生徒たちを 図書活動に参加させてくれる	①生徒も図書委員会も図書室に慣れて きて、よく利用するようになり活動 を楽しむようになった	①図書室を利用する生徒を増やすた めに、新しい図書活動を作っていく。
Frankland 小学校 (R-7年生) 556名	毎日 一日中	テスト期間中、生 徒たちが図書室の 本を利用してプロ ジェクトの調べものや 宿題をしている時	ない	ある 清掃用具や衛生用具の配 布	①生徒たちは、パソコンの使い方な ど、テクノロジーに触れることができ、 また、本を読んだり、ブックレビュー を書くことができてようになった。ス トリーテリングも上手になった。	
Imbalencane 小学校 (R-7年生) 944名	一日中	読書フェスティ バルの時	ない	ある 生徒たちに図書室利用推 奨	①図書室を利用する生徒が増えた	①もっと読書活動を増やしたい。 ②TAAA の皆さま、図書室をありが とうございます。図書室は、私たち の学校にとってとても有用です。
Mehlomnyama 小学校 (R-7年生) 285名	一日中	生徒たちに本を読 んであげている時	ない	ある 図書室で必要なものを購入	①生徒たちは本をたくさん読みたがる ようになった。責任感を学んだ。プロ ジェクトに取り組んでいる時、図書室 に行くようになった。 ②図書室が小さすぎて、20人も入れ ない。もっと広いスペースが必要。	①SGB（PTA）が図書室をサポート してくるのを待っている。
Umalusi 小学校 (R-7年生) 500名	週4日教師 がいる時は 一日中いな い時は休 み時間	図書室のお蔭で、 情報やリソースに アクセスしやす くなった。また、 図書室は生徒たち が集まって一緒 に学ぶコミュニ ティセンター にもなっている	ない	ある 学力などの向上のため に、生徒たちに図書室の 利用を促している。	①生徒たちは、図書室を使って情報 を入手しやすくなった。授業の補習 用情報も図書室から入手するよう になった。 ②司書教師が図書室にいられる時 間が不十分。図書室の設備が不 十分のため、情報入手に支障が生 じている。	①活動をよくするために、図書活 動時間と委員会メンバー数を増 やす。②図書室は知識の貯蔵庫 です。
Dudzile 中学校 (8-9年生) 556名	休み時間	演説週間、読書 週間、母語週 間	ない	ある	①なし ②スペースの問題：図書室が教 室として使われるようになったた め。時間の問題：休み時間が短 すぎる。司書教師は忙しすぎる。	①州教育省は床スペース拡張を 約束してくれた。
Nani 中学校 (8-12年生) 241名	毎日一日中	試験期間や補習 の時	ない	ない	①図書室を積極的に利用する生 徒が増えた ②本の返却	①たくさんある。 ②TAAA に感謝しています。
Malusi 中学校 (8-12年生) 485名	一日中	読書週間	ある ①州教育省（ELITS） ②本の配布図書活動の企 画	ある 図書室ファンド	①ほとんどの生徒が図書室利用 になれてきて、図書室の重要性 を理解するようになった。ほと んどの生徒が、パソコンを使っ て宿題をタイピングすることが できるようになった。②データ とプリンターのインク不足	①図書活動を増やす。②私たち の図書室への TAAA の貢献に感 謝しています。本当によく利用 されるようになりました。
Mangquzuka 高校 (10-12年生) 611名	毎日一日中	生徒が副教材を 必要とする時	ある ①州教育省（ELITS） ②本の配布	ない	①確実に上がった。生徒たちの 利用頻度が上がった。教師が 図書室を訪れて、生徒のために 本を選んで借りるようになった。	②サポートに感謝しています。
Mgamule 中学校 (8-12年生) 595名	毎日休 み時間	生徒も教師も副 教材はとも役に 立つと感じている。特に 物理、生命科学	ない	ある 教師と校長からのサポ ート	①図書委員会生徒が委員会活 動によりコミットするようにな り、当番順をしっかりと守る ようになった。 ②授業中に図書室が使われてい ないこと。	①時間があるときに、教師が 図書室を開けるようにする。 ②図書室は学校にとってとても 大切です。

2022年度（令和4年度）活動計算書

（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会（単位：円）

科 目	日本	南ア	金 額	
I 経常収益				
1 受取会費				
正会員受取会費	145,000		145,000	
賛助会員受取会費	20,000		20,000	165,000
2 受取寄附金				
受取寄附金	537,454		537,454	537,454
3 受取助成金等				
受取公共助成金	0		0	
受取民間助成金	150,000		150,000	150,000
4 その他収益				
受取利息	29		29	
雑収入			0	29
経常収益計（A）				852,483
II 経常費用				
1 事業費				
(1)人件費				
給料手当		526,500	526,500	
臨時雇賃金		10,238	10,238	
法定福利費			0	
人件費計	0	536,738	536,738	
(2)その他経費				
プロジェクト物資購入費		219,778	219,778	
研修費			0	
制作費			0	
プロジェクト物資輸送運搬諸経費	10,000	244,157	254,157	
旅費交通費		225,528	225,528	
車両諸経費		690,861	690,861	
燃料費		340,441	340,441	
視察訪問費			0	
専門家派遣費			0	
施設使用料			0	
会議費	693	11,700	12,393	
通信・運搬費	120,603	49,823	170,426	
印刷・製本費	75,840	19,247	95,087	
消耗品費	2,615	5,986	8,601	
水道光熱費	5,190		5,190	
地代家賃		351,000	351,000	
支払手数料			0	
保険料			0	
雑費	1,100		1,100	
その他経費計	216,041	2,158,521	2,374,562	
事業費計				2,911,300
2 管理費				
(1)人件費				
臨時雇賃・講師代			0	
役員報酬			0	
人件費計			0	
(2)その他経費				
会議費			0	
旅費交通費	1,452		1,452	
車両諸経費			0	
燃料費			0	
通信運搬費	104,384		104,384	
印刷製本費			0	
消耗品費	1,350		1,350	
水道光熱費		78,000	78,000	
支払手数料	10,790	29,670	40,460	
保険料 ⁽¹⁾		218,556	218,556	
地代家賃			0	
事務所設備・修繕費		51,982	51,982	
業務委託費 ⁽²⁾	107,748		107,748	
前年度助成金返還金 ⁽³⁾	5,740		5,740	
雑費	3,424	15,249	18,673	
その他経費計	234,888	393,457	628,345	
管理費計				628,345
経常費用計（B）	450,929	3,088,716		3,539,645
当期経常増減額（A - B）				▲ 2,687,162
III 経常外収益				
1 固定資産売却益				0
経常外収益計（C）				0
IV 経常外費用				
1 過年度損益修正損				0
2 為替差損				0
経常外費用計（D）				0
①当期正味財産増減額（A-B+C-D）				▲ 2,687,162
②前期繰越正味財産額				5,890,743
次期繰越正味財産額（①+②）				3,203,581

備考 (1) プロジェクトマネージャー医療保険 (2) N連経理外部監査費 (3) 外務省 NGO 連携無償資金協力事業

主な活動 (2022年9月16日～2023年5月15日)

【日本国】 TAAA 会員とボランティア

2022年

- 9月～5月 絵本の受け取りと保管 北爪健一
9月～5月 書き損じハガキ・切手の受け取り 浅見克則
9月～5月 ホームページの管理・更新など 渡恵美子 久我祐子
9月下旬 会報送付のための住所ラベル準備 西村裕子
9月～10月 会報80号の編集・校正 野田千香子 久我
9/18 TAAA 臨時理事会 理事
10/6 ひろしま・祈りの石助成事業 第2四半期報告書提出 久我
10月上旬 会報80号の発送準備と郵送 大友深雪 久我
10/21 N連事業完了報告書一式 外務省へ再提出 久我
11/3 「ぐりとぐら」現地語ラベル貼り 大友 浅見 西村
藤川、木内
12/7 南アへ英語の本を郵送(国際小包船便) 北爪
12/18 「ぐりとぐら」現地語ラベル貼り 大友 浅見 西村
藤川、木内
12/19 ZOOM会議 平林薫 久我

2023年

- 1/16 ひろしま・祈りの石助成事業 第3四半期報告書提出 久我
2/26 ZOOM会議 平林 久我
3/14 NPO法人セインとのZOOM会議 久我
4/3 事業会議 平林 久我
4/13 ひろしま・祈りの石助成事業 最終報告書提出 久我
4/19 事業会議 大友 平林 久我
4/22 TAAA 理事会 理事 平林
4月下旬 総会議案書準備 丸岡晶 平林 久我
2022年度経理まとめ・確認 高野千恵美
2022年度経理監査 米山周作
5月上旬 会報81号準備 久我 住所ラベル準備 西村
5/10 横浜女学院訪問 平林 久我

【南アフリカ共和国】 平林薫と南アフリカのスタッフ

- 9月19日 会報80号記事執筆
9月20～23日 学校巡回訪問、第3学期末活動のまとめ
9月26～30日 第3学期末活動のまとめ
10月1日 ポートシェプトン郵便局で日本から船便で送られた本の受け取り
10月3～4日 コンテナ貨物通関準備
10月5日 郡教育省図書部門ンベレ氏と会議・書籍の寄贈
10月6～7日 コンテナ貨物通関準備
10月11日 ブシェバトゥ中高校、ジョージンベレ中高校に本とサッカーボールの寄贈
10月12日 ドゥドゥズィレ中高校に本とサッカーボールの寄贈
10月14～15日 学校巡回訪問
10月17～28日 モンドリは学校巡回訪問指導
平林はコンテナ貨物通関準備
10月26日・31日 ダーバンの税関訪問、輸入許可申請作業
11月1～3日 コンテナ貨物輸入許可申請作業
11月4日 ボングズワネ中高校、ソドゥンゲ小に本の寄贈
11月7日 ドゥエシューラ学区新規校インコンバ小に本棚と本の寄贈

- 11月8～25日 モンドリは学校巡回訪問指導
平林は輸入許可申請作業
11月30日 コンテナ貨物を南ア事務所に搬入
12月・1月 書籍のレベル別分類・学校別配布用箱作り
モンドリと会議等
1月17日 学校寄贈用文房具購入
1月18日 モンドリと今期の活動計画について会議
1月19日 カメラ小に本棚と本の寄贈
1月23～27日 学校巡回訪問指導
1月30日～2月3日 学校巡回訪問指導、司書教師へのアンケート
2月6～10日 学校巡回訪問指導、図書委員会新メンバー決定、
2月13～17日 学校巡回訪問指導、図書委員会新メンバーへの研修、書籍の寄贈
2月20～24日 学校巡回訪問指導、図書委員会活動モニタリング
書籍の寄贈
2月27日～3月3日 学校巡回訪問指導
図書委員会活動モニタリング
3月6日 学校寄贈用文房具購入
3月7～10日 学校巡回訪問指導、図書委員会活動モニタリング
3月9日 ドゥエシューラ学区長マドララ氏と会議
3月13～17日 学校巡回訪問指導、図書委員会活動モニタリング
3月15日 農業指導員ボングムーサさんの自宅にお見舞い

【ご寄付・会費のお願い・2023年8月31日受付終了】

今年は活動最終年となりました。最後まで精一杯で
きるだけのことをしていきたいと願っております。この
ため、ご寄付、会費納入は大変ありがたいです。活動
終了日(2023年12月31日)までに大切にに使わせてい
ただきます。ご寄付・会費の受付最終日は2023年8月
31日とさせていただきます。ご協力のほど、どうぞ
よろしくお願いいたします。

振込先:

- 郵便振替 00100-4-608515
「アジア・アフリカと共に歩む会」
- 三菱UFJ銀行 浦和支店 普通 0262762
特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会

書き損じ・未使用ハガキ、切手のご寄附のお願い 2023年8月31日受付終了

絵本の送料負担を軽減するため、書き損じハガキ、未
使用ハガキや切手のご寄附を引き続きお願い致します。

ハガキ・切手の送り先住所:

〒330-0855

埼玉県さいたま市大宮区上小町1327-208

「アジア・アフリカと共に歩む会」事務局

連絡先: 090-9957-2256